



繪入 新板

長生伏木隱
五之卷

特別
13
3516
2



才二

恋うれまゝりまはし公と経座の女

梢に下女がふ雲を打系志面お希れ後い

文彦と二世の縁組をの娘が男おれい

主人いふと屋火煙わつてる女乃後明

才三

神の若くは神もは家の流

源氏方の若と足あがりぬ親にがむ切

伯父がなまぬ恋よけれ刀の娘れもの

東屋のあがりい武士を捨子の青れ時

一 ありわしうい空は花をかざる女商人

それ留まは流即は後とつてははざる人のる多坊ある
るゆられい大場と申宗親同全分俣申あう宗尚今交る橋
ふの合戦は付結ら何は佐友と退るしる戦功にうて。お家
より東八ヶ宿の侍あどゆるされぶ分のか傍とけりしり。盛智つ
うしんをんもあつさるゆる。希さの妻とさりめ。仁義ささるう
見とせの物ともいり。およりあまこの魁女とまひさあつて。
後性と希法は橋の作らたのすささるる。あがしよままうれて
戦ふおやとされ。花とけり。結負とさりめ。有る女は海を
すらて物い碎とて多いのこの守。さそ風流のけ舞とる
づけて。目毎は戦りて息をせり。ままた妻の肥るを探であける。





